

ちよっと、ミカせん！

先生が苦しんでいるじゃないですか！
いい加減、配慮というものを……！

だ、大丈夫……ナギサ……
これくらい……んふううーっ！

いやだもん！♥ナギちゃん
先生とキスしたくていいじわる
してるんでしょ？♥

そのような
意図じゃ……♥

おおっ♥おおっ♥おおっ♥
んおおっ♥んほおおっ♥



えっ!?! そうなの!?!
先生はナギサの優しいキス
大好きなんだけどな!?!

ま...待ってください!?!
先生...♡んちゅう...♡

なにそれ!! 私とのキスは
どうでもいいってこと!?!

先生っ♡もっと強く♡
強く刺してくれえっ♡
んごおおおーっ♡♡

セイアちゃんうめさーい!!
話に集中できないじゃん!!



ふはあ...♥普段難解な
お話ばかりなさっている
セイアさんよりは
マシではありませんか...?♥

あれが...?お淑やかなお嬢様
ふってる方が百倍マシだよ...
あれじゃ完全に獣じゃん...!!

まあ、私としては
普段の神秘的なイメージの
セイアも魅力的だけど

チンポを挿れただけで
本能に忠実な雌狐になる
こっちのセイアも
すっごく可愛いと想うよ♥

せ...先生...っ♥
からかわないでくれ...♥
ふうっふうっ...♥



ええー!?♥先生
私は!?私は!?♥

ふふっ♥ミカさんも
可愛い時は可愛いですよ?♥

普段は喧しいのに先生と
する時は大人しくなってる...♥

な、ナギちゃんに
聞いてないし!!!♥

ナギちゃんこそ
先生の前では赤ちゃんに
なるくせに...っ!!!♥

ミカさん
落ち着いて!!!

や、やあ...先生...♥
そろそろ他人との侮い遊興は止めて...♥
私に専念してくれないか...?♥



ずんずん

ずんずん

ずんずん

ずんずん

ずんずん

君の聖域を高揚させる
主体は私なのだからね♥当然私の
苦行も称賛して然るべきだろう?♥

つまり他の子と
イチャつくのはやめて
自分に集中しろってことか?

わあ…先生すごい…♥
何言ってるか分かる…?

流石は伊達に先生を
やってないね…!♥

セイアさんこそ先生の
だ…大事な部分を
独占なさっていな

それ以上欲を
出すのは少し度が
過ぎていませんか…?

れお…♥

くさ

おほ

おほ

おほ

おほ

おほ

おほ



君らこそ私の独占的地位を
嫉んで先生の唇に
執着しないでくれたまえ♡

この瞬間、彼と有機的に結合し
共鳴する者は私のみだからさ♡

へえ…何言ってるか
全然分かんないけど
喧嘩売ってるって
ことだけは分かったよ…!!

落ちてきてくださいミカさん…
セイアさんは今発情状態で
正気ではないようですから…

「」は私たちが
理解して差し上げなくては…

ちよつとみんな…
喧嘩はやめ…

おっおっおっ!!セイア!!
急に…締め付けられたら…!!

グウレグウレ
グウレグウレ
グウレグウレ

じい

じい



ふふっ♥見たまえ♥
先生の鼓動する生命力が

既に私の奥深くで
揺れ動いているではないか♥

君らはただこの
輝かしい交感の周囲を
彷徨う残像に過ぎぬのだよ♥

そ…そんなことないもん…!!
私だって先生をちゃんと
気持ちよくしてあげられるもん…!!

わ、私も完璧に
ご奉仕してあげられます…!!
先生、次は私が…!!

先生が私に逃れられると
思っているとはな…実に
憐れで無意味な渴望だ♥

ふっふっ…ふっふっ…
ミカ…ナギサ…待って…

セイア…もうみんなを
刺激するのは…

ぬるぬる♥

ぬるぬる♥

ぬるぬる♥

ぬるぬる♥



今はみんなと一緒の時間だろ!! この淫乱狐め!!

忙しくて死にそうなのに、オナホルルペットのまんこまで私が管理しなきゃいけないの!?

まだ分かってないのか!! 黙ってアムアム鳴きながら媚びろ!!!

おふっ♡おほおっ♡おふっ♡すまないすまない♡許しておくれえっ♡♡♡

えっ...せ...せんせい...?

これは一体...

すまない♡すまない♡

先生の愉悅のための道具としてその使命を果たせなかった♡私の不忠を謝罪しようっ♡♡♡

ガッガッガッ

ガッガッガッ

はーっはーっ

はーっ

はーっ

ふっふっ

おっ

おっ

おっ

あーっあーっ

あーっ

あーっ



お前らもさうするさく
ギャーギャー騒ぐな
すぐこの狐を教育してから
ちんぽ入れてやるから

ナギサ、埋め合わせなんて
言っていないで舌を出せ、
代わりにキスしてあげるから

は...はいいつ...♡んっ♡
ありがとっ♡さいます...♡
んむっ♡んちゅっ...♡

先生...♡私も...
私にもして...♡?

分かったから急かすな
おい、尻尾付きオナホール

フッフウツ...♡承知しよう...♡
最後までオナホールとしての
本分を尽くすゆえ...♡

先生の精液...♡
私の一番奥に出して...♡
出してくれ...♡♡♡

私♡私もっ♡
イク♡イクツ♡
イククウウツ♡♡♡



射精のせいで中途半端なキスになっちゃったね...ごめん、ミカ...

ううん...♡いい...♡
気持ちよかった...♡
キスだけでイッちゃう
ところだったんだよ...♡

よ...ようやくく正気に
戻ったのか...先生...♡
こ...今回は本当に
死ぬかと思ったね...♡

そ、それはセイアが
刺激するから...
とりあえず少し休もう...

いけません...♡
セイアさんだけ、あんなに
情熱的に可愛がられるなんて...
そんなの不公平ですよ...♡

あーん



次は私だよな...♡ 私...いい子にしてだから...♡

いい子にはご褒美でしょ...♡ ねえねえっ...先生っ...♡

私も...先生のお望みなら セイアさんと同じよな...

いえ、それ以上の行為も できますから...♡

何なりとご命令して ください...♡先生...

私のことも忘れて もらっては困るよ、先生♡

権威回復を兼ねて今回は 優しい純愛交尾を願おうか♡

なんなら主従関係ごっこでも 構わないのだが...♡

オナホール役も悪くはなかったが 流石に使い捨てはティーパーティの 名折れなのだからね♡

たっ助けてっ！ イチカ目スミっ！



























